

2025 年度 大学院入学試験

大学院の概要

文 学 研 究 科

理 学 研 究 科

国際関係学研究科



津田塾大学

TSUDA UNIVERSITY

大 学 院 の 概 要

大学院の目的

本大学院はキリスト教精神に基づく学部の教育の基礎の上に、専門の学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展と人類の福祉に寄与することを目的とする。

修士課程・後期博士課程の目的

修士課程は、広い視野に立って清深な学識を受け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な能力を養うことを目的とする。

後期博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

研究科・専攻・課程・研究分野

研究科	専攻	課程	研究分野
文学研究科	英文学専攻	修士課程 後期博士課程	イギリス文学 アメリカ文学 イギリス文化 アメリカ文化 英語学 異文化コミュニケーション学 英語教育
			現職教員研修プログラム
		修士課程	英語教育実践研究
理学研究科	数学専攻	修士課程 後期博士課程	数学
	情報科学専攻	修士課程 後期博士課程	情報科学
国際関係学研究科	国際関係論専攻	修士課程 後期博士課程	国際関係学

大学院の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

津田塾大学の目的は、女性に広く高度な教養と、専門の学術を研究する能力を授け、キリスト教精神により、堅実円満にして自発性と奉仕の精神に富む人物を養成することにあります。大学院においては、研究科に所定の期間在学し、上記の教育理念ならびに研究科の教育目標に沿って設定した授業科目（演習や実習、学位論文作成等を含む）において所定の単位数を修得し、必要な要件を満たした学生に、学位を授与します。

【文学研究科 英文学専攻】

【修士課程】

本研究科修士課程は、大学院学則第1条、第2条、第4条に定める目的に沿って研究を行い、所定の単位を修得し、英語で執筆された修士論文の審査を経て、幅広い高度な専門的知識や研究成果を学術的に論述・発表できる英語力を身につけ、専門分野における研究能力を修得したと認められる学生に修士（文学）の学位を授与します。

【後期博士課程】

本研究科後期博士課程は、大学院学則第1条、第2条、第3条第2項に定める目的に沿って研究を行い、所定の単位を修得し、英語で執筆された博士論文の審査を経て、専門分野において研究者として自立して研究活動を行うに足る高度な研究能力、および学術論文を執筆できる英語力、あるいは、高度な専門的知識が要求される業務を遂行するに十分な能力を修得したと認められる学生に博士（文学）の学位を授与します。

【理学研究科 数学専攻】

【修士課程】

修士課程は所定の単位を修得し、修士論文の審査を経て、専門分野における研究能力を示すか、または十分な修学の成果を示した学生に修士（理学）の学位を授与します。

【後期博士課程】

後期博士課程は所定の単位を修得し、博士論文の審査を経て、専門分野において自立して研究活動を行う能力を示すか、または高度な専門性を要する業務を遂行できる能力を示した者に博士（理学）の学位を授与します。

【理学研究科 情報科学専攻】

【修士課程】

大学院学則第1条、第2条、第4条に定める目的に沿って研究を行い、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格し、情報科学分野における研究能力または専門性を要する職業に必要な能力を有すると認められた学生に修士（理学）の学位を授与します。

【後期博士課程】

大学院学則第1条、第2条、第3条第2項に定める目的に沿って研究を行い、所定の単位を修得し、博士論文の審査に合格し、情報科学分野で自立した研究活動を行うことができる、あるいは高度に専門的知識を求められる業務を遂行するに十分な能力を有すると認められた学生に博士（理学）の学位を授与します。

【国際関係学研究科 国際関係論専攻】

【修士課程】

国際関係学研究科は、現代世界の諸問題を地域や具体的事象に即して、学術的に解明できる専門家の育成を目指しています。現代世界の諸問題は当該地域にとどまらず、国境を越えた広がりをもっていると同時に、ひとつの学問分野では扱えない範囲に及んでいます。

こうした現実において、本研究科は、以下の方法を用いて、問題解決に迫るものです。

1. 歴史的文脈を踏まえ、研究に必要な言語を利用する。
2. 国際的あるいは全地球的視野に立つ。
3. 既存の学問研究の成果を学びつつ、従来の細分化された学問のあり方を超えるような学際的・領域横断的な視点と方法を模索する。

このような教育目標に沿って、修士課程では、所定の単位を修得し、修士論文の審査を経て、広い視野に立って精深な学識を有し、国際関係学分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を有すると認められた学生に修士（国際関係学）の学位を授与します。

【後期博士課程】

国際関係学研究科は、現代世界の諸問題を地域や具体的事象に即して、学術的に解明できる専門家の育成を目指しています。現代世界の諸問題は当該地域にとどまらず、国境を越えた広がりをもっていると同時に、ひとつの学問分野では扱えない範囲に及んでいます。

こうした現実において、本研究科は、以下の方法を用いて、問題解決に迫るものです。

1. 歴史的文脈を踏まえ、研究に必要な言語を利用する。
2. 国際的あるいは全地球的視野に立つ。
3. 既存の学問研究の成果を学びつつ、従来の細分化された学問のあり方を超えるような学際的・領域横断的な視点と方法を模索する。

後期博士課程では、所定の単位を修得し、博士論文の審査を経て、国際関係学について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有すると認められた学生に博士（国際関係学）の学位を授与します。

学位の種類

研究科	修士課程	後期博士課程
文 学 研 究 科	修士（文 学）	博士（文 学）
理 学 研 究 科	修士（理 学）	博士（理 学）
国際関係学研究科	修士（国際関係学）	博士（国際関係学）

大学院の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

津田塾大学では、多様な地球的課題に対してイニシアティブを発揮しつつ、地域社会と国際社会の双方で貢献できるオールラウンドな女性を育成するため、リベラル・アーツ教育およびリベラル・アーツ教育に根差した専門教育を行っています。修士課程および後期博士課程は、それぞれ次のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

【文学研究科 英文学専攻】

【修士課程】

本研究科修士課程のカリキュラムは、学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施しています。

本研究科は、イギリス文学、アメリカ文学、イギリス文化、アメリカ文化、英語学、異文化コミュニケーション学、英語教育、英語教育実践研究の8専門分野で構成されており、コースワークとリサーチワークという二つの科目区分に基づいて授業を提供しています。

コースワークは、学生が2年間を通して履修する科目から構成されており、主にリサーチワークの科目の推進を基礎的側面ならびに隣接的関連的側面の両面から支援、展開させるものです。多彩で充実した講義科目を受講することにより、学生は、自身の研究分野に直結する専門的知識を深め、分析力を高めるとともに、隣接する研究分野外の科目を通して思考力や判断力を身につけ、総合的な研究力を修得することができます。

リサーチワークの科目としては、「論文演習Ⅰ」および「アクションリサーチ演習」を設けています。「論文演習Ⅰ」では、イギリス文学、アメリカ文学、イギリス文化、アメリカ文化、英語学、異文化コミュニケーション学、英語教育の各分野における専門知識ならびに理論に基づき、各自のテーマで研究を遂行し、「修士論文」の作成を目指します。英語教育実践研究の「アクションリサーチ演習」では、最新の理論や研究を、教育現場での授業改善にどう活用するかに焦点を当てて、「アクションリサーチ報告論文」もしくは「アクションリサーチ教材開発研究論文」の作成を目指します。リサーチワークの科目では、英語による論文の作成を目的とした丁寧な個別指導により、学生が研究の遂行に必要な知識や能力、英語で学術的に論じる力を身につけ、研究成果を修士論文として完成できるよう研究指導を行います。

修士課程においては、各分野の専門知識や研究方法、そして、その応用や実践法を教授すると同時に、英語力にも優れ、現代社会に貢献できる人材を育成することを目指します。

【後期博士課程】

本研究科修士課程のカリキュラムは、学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。

本研究科は、イギリス文学、アメリカ文学、イギリス文化、アメリカ文化、英語学、異文化コミュニケーション学、英語教育、英語教育実践研究の8専門分野で構成されており、コースワークとリサーチワークという二つの科目区分に基づいて授業を提供しています。

コースワークは、主にリサーチワークの科目の推進を基礎的側面ならびに隣接的関連的側面の両面から支援、展開させるための授業科目で構成されています。多彩で充実した講義科目を受講することにより、学生は、修士課程で培った自身の研究分野に直結する専門的知識をさらに深め、分析力を高めるとともに、隣接する研究分野外の科目を通して思考力や判断力を身につけ、独自の視点

から研究対象を分析する力を修得することができます。

リサーチワークの科目である「論文演習 II」では、英語による博士論文の作成を目的とした丁寧な個別指導により、学生が研究を遂行、発展させるための知識や能力、また英語で学術論文を執筆する力を身につけることができます。指導教員による個人指導を中心として、まずは博士候補生の資格を獲得し、ついで研究成果を博士論文として完成し、学位を取得できるよう、段階を踏んだ指導を行います。

後期博士課程においては、高度な専門教育や専門的業務を行うための研究能力と優れた英語力を有し、自立した研究活動を行い、当該研究分野の進展に新たな貢献を果たすことのできる人材の育成を目指します。

【理学研究科 数学専攻】

数学は自然現象や社会現象を支配する原理や構造を調べ、その本質を探究する学問です。数学専攻では独自性と柔軟な発想力、粘り強く問題解決に取り組む力を備え、高度な専門的知識と能力に基づいた判断や行動ができる人材の育成を目指しています。

【修士課程】

修士課程では、研究に必要な基礎知識・英語活用方法・研究手法を修得し、専攻分野の学修を深めることを教育目標としています。その実現のために、セミナーを中心にして研究指導を行う必修・選択必修科目と幅広い専門分野の講義を行う選択科目を用意しています。前者がリサーチワーク、後者がコースワークにあたります。

【後期博士課程】

後期博士課程では、自ら問題を発掘し、研究を企画、遂行し論文にまとめあげる力の修得を教育目標に、博士学位論文の作成と学位の取得または後期博士課程終了報告論文の作成を最終目標としています。その実現のために、セミナーを中心にした研究指導を行う必修科目と幅広い専門分野の講義を行う選択科目を用意しています。前者がリサーチワーク、後者がコースワークにあたります。

【理学研究科 情報科学専攻】

情報科学は情報技術に関する原理の探究から情報技術の人間社会への適用までを扱う幅広い学問です。情報科学専攻では、情報科学に関する先端的な技術を学ぶ素養を育て、情報科学分野における研究能力、および、専門性を要する高度な情報技術の修得を教育目標とし、コースワークの科目とリサーチワークの科目を設けています。

【修士課程】

修士課程では、自ら最先端の情報科学研究を推進できる能力の修得を教育目標にしています。そのため、研究テーマを広い視野から位置づけられるように、情報科学の多様な内容や先端知識を扱うコースワーク科目を開講しています。また、自身の専門分野を深く学ぶために、リサーチワーク科目「セミナー1」および「セミナー2」を通じて研究テーマに関連する情報を読み解き、議論し、知識・理解を深めていきます。そして研究を推進するために、リサーチワーク科目「情報科学特別研究I」を通じて研究の計画、実施、論文執筆、発表等の指導を行います。

【後期博士課程】

後期博士課程では、情報科学分野において自ら独創的な研究課題を発見し、解決する能力の修得

を教育目標にしています。そのため、研究を計画・推進し、研究成果を論文にまとめあげ発表する一連の過程を、リサーチワーク科目「セミナー」「特別研究 II」を通じて指導していきます。

【国際関係学研究科 国際関係論専攻】

【修士課程】

国際関係学研究科は学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。

本研究科は三つのタイプの授業を提供し、学生がそれらをバランスよく履修することで必要な能力が涵養されるよう、教育課程を編成します。第一のタイプは、多様な主題について学ぶ、セミナー型の少人数授業です（「国際関係論基本研究」「国際関係論地域研究」「国際関係論特殊研究」）。学生は自分の研究の深化・発展のためにディシプリン、イシュー、地域を組み合わせで選択します。第二のタイプは、各人の研究テーマと問題関心に合わせた、指導教員による研究指導です（「論文演習」）。第三のタイプは、研究科の全学生と複数の教員の参加の下に各自の研究を発表する、コロキウム型の授業です（「国際関係論総合研究」）。さまざまな研究視点、方法論をもつ参加者に自らの研究を示してフィードバックを得るとともに、専門以外の分野の報告に対する討論にも加わることで、多様な視点と知見を獲得します。第一のタイプがコースワークに、第二、第三のタイプがリサーチワークにあたります。

修士課程では、多くのセミナー型少人数授業を履修して研究に必要な基礎知識や研究手法を修得しつつ、同時に研究指導を通じて専攻分野の学修を深めていき、その成果をコロキウム型授業で報告して多方面からのフィードバックを受けます。

【後期博士課程】

国際関係学研究科は学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。

本研究科は三つのタイプの授業を提供し、学生がそれらをバランスよく履修することで必要な能力が涵養されるよう、教育課程を編成します。第一のタイプは、多様な主題について学ぶ、セミナー型の少人数授業です（「国際関係論基本研究」「国際関係論地域研究」「国際関係論特殊研究」）。学生は自分の研究の深化・発展のためにディシプリン、イシュー、地域を組み合わせで選択します。第二のタイプは、各人の研究テーマと問題関心に合わせた、指導教員による研究指導です（「論文演習」）。第三のタイプは、研究科の全学生と複数の教員の参加の下に各自の研究を発表する、コロキウム型の授業です（「国際関係論総合研究」）。さまざまな研究視点、方法論をもつ参加者に自らの研究を示してフィードバックを得るとともに、専門以外の分野の報告に対する討論にも加わることで、多様な視点と知見を獲得します。第一のタイプがコースワークに、第二、第三のタイプがリサーチワークにあたります。

後期博士課程では、指導教員による個人指導とコロキウム型授業における研究報告を中心として、必要に応じてセミナー型少人数授業を履修し、まずは博士候補生の資格を獲得し、ついで博士学位論文を作成して学位を取得すべく、段階を踏んだ指導を行います。

修士課程・後期博士課程の修了要件

修士課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、授業科目について当該課程が定めるところにより文学研究科32単位、国際関係学研究科・理学研究科の当該課程にあつては30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

後期博士課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、授業科目について当該課程が定めるところにより20単位（国際関係学研究科21単位）以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

大学院修学休業制度について（高等学校・中学校現職教員対象）

＜文学研究科修士課程＞ ＜理学研究科修士課程＞

大学院修学休業制度あるいはそれに準ずる制度を利用して大学院に入学した場合、履修方法の詳細を、指導教員との協議に基づき決めることができます。

2年間で履修することが望ましいですが、1年間でできるだけの単位を修得し、2年目は、文学研究科・理学研究科ともに、論文指導と修士論文の作成だけにすることも可能です。

大学院の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）

津田塾大学大学院は、学部教育の基礎の上に専門学術の理論および応用を教授研究し、その深奥をきわめて文化の進展と人類の福祉に寄与し、社会に貢献することを目的として、文学研究科、理学研究科、国際関係学研究科を設置し、高度な専門性、研究能力を持った研究者を育成しています。

本大学院では、この目的と教育課程をよく理解し、それぞれの研究科の教育課程を履修するために必要な学力を備え、研究を進めるのにふさわしい研究テーマと能力をもつ女性を広く受け入れます。

【文学研究科 英文学専攻】

本研究科では、イギリス文学、アメリカ文学、イギリス文化、アメリカ文化、英語学、異文化コミュニケーション学、英語教育、英語教育実践研究の専門分野において、さまざまな経歴・年齢層の学生が協力し、切磋琢磨しながら、研鑽を積んでいます。伝統と高い研究水準を誇る本研究科は、これらの分野における研究をさらに深めようと志す女性にとって理想的な環境を提供しています。

【修士課程】

修士課程では、イギリス文学、アメリカ文学、イギリス文化、アメリカ文化、英語学、異文化コミュニケーション学、英語教育、英語教育実践研究の各専門分野において、幅広い専門的知識と英語で学術的に論じる力を獲得して、それぞれの研究分野における研究能力および高度な専門的職業に必要な能力を養うことを目指す者を広く受け入れます。

また、現職教員研修プログラムでは、研修期間やサバティカル制度を利用して、修士課程を修める意欲のある現職教員を受け入れます。

英語教育実践研究では、英語教育に関わるさまざまな教育機関において仕事を続けながら確実な実践力・研究力を身につけ、教育現場を改善・向上させていく意欲のある学生を広く受け入れます。

【後期博士課程】

後期博士課程では、イギリス文学、アメリカ文学、イギリス文化、アメリカ文化、英語学、異文化コミュニケーション学、英語教育の専門分野における深い専門的知識と英語で学術論文を執筆する力を修得し、自立した研究者として学問研究を続けていくこと、あるいは高度な専門的職業に必要な研究能力と豊かな学識を養うことを目指す者を広く受け入れます。

【理学研究科 数学専攻】

〔修士課程〕

修士課程では、自然科学や諸科学の基礎となるより進んだ数学に強い関心を持ち、専門分野における研究能力を養うことを目指す者、または、高度な専門的職業を担うための知識と能力の修得を目指す者で、それにふさわしい基礎的知識を持ち、粘り強く問題解決を試みようとする人物を広く受け入れます。

〔後期博士課程〕

後期博士課程では、数学の専攻分野において自立して研究活動を行う能力を養うことを目指す者、高度の専門性を持ち、数学の普及、社会的還元に携わることを目指す者を広く受け入れます。

【理学研究科 情報科学専攻】

〔修士課程〕

情報化社会を支える情報科学に強い関心を持ち、情報科学に関する基礎的な学力と英語文献の読み書きができる素養を備え、情報科学分野の研究能力、または、専門性を要する職業に必要な能力の修得を目指し、その修得に強い意欲をもつ者を広く受け入れます。

〔後期博士課程〕

情報科学分野で自立して研究活動を行う能力、あるいは高度に専門的知識を求められる業務を遂行するに十分な能力を養うことを目指す者を広く受け入れます。

【国際関係学研究科 国際関係論専攻】

〔修士課程〕

国際関係学研究科は、現代世界の諸問題を地域や具体的事象に即して学術的に解明できる専門家の育成という目的に沿って、自らの問題意識をもって研究したいという志をもった学生を積極的に受け入れます。

修士課程は、学部レベル以上のより深い研究をしたいと思うあらゆる学生に門戸を開いています。所定の単位を取得し、修士論文を完成するために必要な基礎的能力が求められます。

〔後期博士課程〕

国際関係学研究科は、現代世界の諸問題を地域や具体的事象に即して学術的に解明できる専門家の育成という目的に沿って、自らの問題意識をもって研究したいという志をもった学生を積極的に受け入れます。

後期博士課程は、研究者や高度に専門的な業務への従事を志望する学生を受け入れます。自立した研究活動や高度に専門的な業務に必要な高度な研究能力と、その基礎となる豊かな学識を身につけ、博士論文を完成させる能力と意欲をもつことが求められます。

履修について（参考：2024 年度）

（小平キャンパス）

文学研究科・理学研究科：授業期間は前期、後期の2期とし、各期は15週とします。

国際関係学研究科：授業期間は第1ターム～第4タームの4期とし、第1、3、4タームは9週とします。原則、第2タームは授業を行いません。

各週は月曜日より金曜日まで、毎日8:50～17:50までを5時限に分けて授業時間とします。土曜日は通例自習日ですが、特別講義・見学・実験・補講・試験等を行うことがあります。

時 限	授 業 時 間
1	8:50～10:20
2	10:30～12:00
3	13:00～14:30
4	14:40～16:10
5	16:20～17:50

6月18日(火)～24日(月)〔前期第9回／第1ターム最終授業期間〕、11月5日(火)～11日(月)〔後期第6回／第3ターム最終授業期間〕、1月27日(月)～1月31日(金)〔後期第15回／第4ターム最終授業期間〕については、次の時間で行います。※変更がある場合はTsudaNet等にてお知らせします。

時 限	授 業 時 間
1	8:50～10:20
2	10:40～12:10
3	13:00～14:30
4	14:50～16:20
5	16:40～18:10

（千駄ヶ谷キャンパス）

学期は前期、後期の2期とし、各期は15週とします。各週は月曜日より土曜日まで、毎日8:50～21:30までを7時限に分けて授業時間とします。

ただし、原則として、月曜日から金曜日までは6・7時限で授業を行います。また、土曜日は2～7時限で授業を行います。

時 限	授 業 時 間
1	8:50～10:20
2	10:30～12:00
3	13:00～14:30
4	14:40～16:10
5	16:20～17:50
6	18:20～19:50
7	20:00～21:30

教育職員免許状取得について

修士課程において、次の教科に関する免許状の取得に必要な課程が認可されており、この課程を修了した者は所定の手続きを経れば修了と同時に教育職員免許状を取得することができます（一種免許状所持者または一定要件のもと科目等履修生として一種免許を取得し、指定された大学院科目を修得した場合）。詳細については、本学教務課(Tel.042-342-5130)まで、お問合せください。

研究科	免許状の種類	免許教科
文学研究科	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	外国語（英語）
理学研究科	中学校教諭専修免許状	数学
	高等学校教諭専修免許状	数学 情報
国際関係学研究科	中学校教諭専修免許状	社会
	高等学校教諭専修免許状	地理歴史 公民

大学院委託聴講制度

大学院委託聴講制度は、大学院間の連携により、相互に特色ある授業科目の履修の機会を増やすことを目的とし、協定を結んでいる他の大学院の授業を聴講して、単位を修得できる制度です。本大学院でこの制度を実施している研究科及び協定校は次の通りです。

研究科	大学院名
文学研究科	青山学院大学大学院、法政大学大学院、上智大学大学院、 明治大学大学院、明治学院大学大学院、日本女子大学大学院、 立教大学大学院、聖心女子大学大学院、東北学院大学大学院、 東京女子大学大学院、東洋大学大学院、東京外国語大学大学院
理学研究科	中央大学大学院、学習院大学大学院、上智大学大学院、 国際基督教大学大学院、明治大学大学院、日本大学大学院、 日本女子大学大学院、立教大学大学院、東京女子大学大学院、 東京理科大学大学院、東京外国語大学大学院、 SecCapプログラム提供研究科、総合研究大学院大学先端学術院、 筑波大学大学院システム情報工学研究科 ^(注) 、電気通信大学大学院 ^(注) 、 (注) 情報科学専攻の学生のみ対象
国際関係学研究科	電気通信大学大学院、 東京外国語大学大学院

海外の協定校への留学（2024 年 4 月現在）

本学では海外の 30 の大学との間で学生交流協定を締結しています。そのうち、大学院生が応募できる大学は次の通りです。

[修士課程]

国	協定校
アメリカ	Bryn Mawr College ^(注1) , Randolph College, Spelman College ^(注2) , Sarah Lawrence College ^(注1) , Western Washington University ^(注1) , Minnesota State University Moorhead, University of Kansas
英国	University of Edinburgh ^(注1) , University of Bristol ^(注1) , University of York ^(注1) , Aberystwyth University, University of Leeds ^(注1)
フランス	CY Cergy Paris Université ^(注1)
ドイツ	Heinrich Heine University Düsseldorf ^(注1) , Hochschule Bremen City University of Applied Sciences
オーストリア	University of Applied Sciences Upper Austria
中国	南京大学海外教育学院 (Institute for International Students, Nanjing University) ^(注1)
韓国	梨花女子大学 (Ewha Womans University)
オーストラリア	Australian National University ^(注1) , Deakin University ^(注1)
フィリピン	University of the Philippines
メキシコ	Universidad Autónoma Metropolitana
スウェーデン	Blekinge Institute of Technology

[後期博士課程]

国	協定校
アメリカ	Randolph College
メキシコ	Universidad Autónoma Metropolitana

留学先との協定により、留学先や本学の学費が減免になる協定校もあります。

(注 1) 大学院の授業は原則として受講できない。

(注 2) 大学院は設置されていない。

学費・その他の納入金

2025 年度入学者の入学金・学費（授業料・施設設備費）・その他の納入金は 10 月初旬に決定します。

1. 入学金・学費（授業料・施設設備費）（予定）

文学研究科・国際関係学研究科（修士課程・後期博士課程）

（単位：円）

	入学手続時納入	10 月中納入	初年度合計
入学金	200,000	—	200,000
授業料	前期 294,000	後期 294,000	589,000
施設設備費	前期 82,500	後期 82,500	165,000
計	577,000	377,000	954,000

理学研究科（修士課程・後期博士課程）

（単位：円）

	入学手続時納入	10 月中納入	初年度合計
入学金	200,000	—	200,000
授業料	前期 324,500	後期 324,500	649,000
施設設備費	前期 91,000	後期 91,000	182,000
計	615,500	415,500	1,031,000

< 修士課程 >

本学学部卒業者及び本学学部卒業見込者の入学金は 100,000 円です。

< 後期博士課程 >

1. 本学学部卒業者及び本学修士課程修了者の入学金は、100,000 円です。
2. 本学修士課程修了見込者の同一研究科後期博士課程入学金は、無料です。

在学中の学費について

大学院（修士課程・後期博士課程）の在学中の学費は、定額方式を適用します。

2. その他の納入金について

津田塾大学同窓会費積立金 50,000 円（終身会費で初年度のみ納入、本学卒業・修了者及び本学卒業・修了見込者は不要）

奨 学 金

大学院生対象の主な奨学金は次の通りです。

1. 日本学生支援機構奨学金

（金額は 2024 年度入学者）

申 込 資 格	種 類	金 額
人物・学力ともにすぐれ、研究を継続するために奨学金の貸与が必要と認められる者	貸与	第一種
		修士課程 月額 50,000 円、88,000 円から選択
		後期博士課程 月額 80,000 円、122,000 円から選択
		第二種
		①月額 50,000 円、80,000 円、100,000 円、130,000 円、 150,000 円から選択
		②入学時特別増額貸与奨学金 100,000 円、200,000 円、300,000 円、400,000 円、 500,000 円から選択

2. 津田塾大学奨学金

（参考：2024 年度）

種 別	申 込 資 格	種 類	金 額
大学院修学奨励奨学金	修士課程および後期博士課程入学者で成績が優秀で研究意欲があり将来が有望である者	給付	授業料半額相当額
修士課程奨学金	修士課程に在学する者で、日本学生支援機構奨学金出願資格を有しながらも、日本学生支援機構の推薦に採用されなかった者	貸与	学費相当額
後期博士課程奨学金	後期博士課程に在学する者で、日本学生支援機構奨学金出願資格を有しながらも、日本学生支援機構の推薦に採用されなかった者	貸与	学費相当額

種 別	申 込 資 格	種 類	金 額
海外留学（派遣・受入）奨学金	海外の大学・大学院に留学する者	給付	50 万円を上限
大学院海外学術研究奨励金	海外で学会出席・学術調査をする者	給付	15 万円を上限
緊急時対応奨学金	家計急変により学費の納入が困難になった者	給付 ・ 貸付	40 万円 内卒業が確定した者は 20 万円給付
一時貸付金	緊急に借入金の必要が生じた者	貸付	3 万円以内

教育訓練給付制度について

下記の研究科・課程は、厚生労働大臣より「一般教育訓練給付制度」の講座指定を受けています。

研究科	課程
文学研究科 英文学専攻（英語教育実践研究） 理学研究科 数学専攻 理学研究科 情報科学専攻 国際関係学研究科 国際関係論専攻	修士課程

本制度の一定の条件を満たす者が指定を受けた研究科・課程を修了した場合、所定の金額がハローワーク（公共職業安定所）から支給されます。詳細は、本学経理課（Tel. 042-342-5125）までお問合せください。

<教育訓練給付制度とは>

働く人の主体的な能力開発の取組みを支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とする雇用保険の給付制度です。

一定の条件を満たす雇用保険の一般被保険者（在職者）または一般被保険者であった方（離職者）が、厚生労働大臣の指定する教育訓練を受講し修了した場合、教育訓練施設に支払った教育訓練経費の 20%に相当する額（上限 10 万円）をハローワーク（公共職業安定所）から支給します。初回に限り、被保険者期間 1 年以上で受給可能です。

修了後の進路

大学院修了（終了）後の進路については、以下をご参照ください。

<https://www.tsuda.ac.jp/student-life/career/gs-feature.html>

入学試験の概要（出願の際には、入学試験要項で確認してください。）

1. 募集人員

研究科・専攻	修士課程	後期博士課程
文学研究科 英文学専攻	約 15 名	約 5 名
理学研究科 数学専攻	約 5 名	約 2 名
理学研究科 情報科学専攻	約 5 名	約 1 名
国際関係学研究科 国際関係論専攻	約 10 名	約 3 名

2. 試験科目等

[修士課程]

研究科	試験科目・事前提出書類（論文等のみを抜粋）
文学研究科	<10 月期> 英語（英文和訳、和文英訳、英作文） 専門（共通問題、小論文） 面接 <2 月期> 卒業論文またはこれに相当するもの（事前提出） 小論文（英語） 面接
文学研究科 英語教育実践研究	英語（英語エッセイ・ライティング） 専門（英語指導の実践力を問う問題） 面接（日本語・英語）
理学研究科 数学専攻	数学基礎（微分積分、線形代数は必須。他に代数入門、位相入門、微分方程式入門から 1 題選択） 数学専門（受験者の希望する専攻分野に関する口述試験）
理学研究科 情報科学専攻	情報科学基礎（微分積分、線形代数、確率統計、プログラミング、アルゴリズム、情報科学の 6 題から 4 題選択） 情報科学専門（受験者の希望する専攻分野に関する口述試験）
理学研究科 社会人対象	小論文（事前提出） 口頭試問（提出した小論文をもとにした口頭試問）
国際関係学研究科	卒業論文またはこれに相当するもの（事前提出） 外国語（英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語から 1 科目選択（母語を除く。）） 面接（提出論文に基づく）

[後期博士課程]

研究科	試験科目・事前提出書類（論文等のみを抜粋）
文学研究科	修士論文またはこれに相当するもの（事前提出） 英語（英文和訳、和文英訳） 面接
理学研究科 数学専攻	修士論文またはこれに相当するもの（事前提出） 修士論文及び専攻分野に関する口頭試問
理学研究科 情報科学専攻	
国際関係学研究科	修士論文またはこれに相当するもの（事前提出） 面接（提出論文に基づく）

大学に３年以上在学した者の出願資格について

＜理学研究科修士課程＞ ＜国際関係学研究科修士課程＞

入学時まで大学（他大学も可）に３年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって取得したと本大学院が認めた者には、出願資格が与えられます。（いわゆる飛び級です。）出願前に出願資格を審査します。詳細は、本学入試課（Tel. 042-342-5120）までお問合せください。

大学院入学試験統計

	研究科	課 程	募集人員	志願者	受験者	合格者
2023	文学研究科	修士課程（10 月期）	15	6	6	4
		修士課程（2 月期）	若干	2	2	2
		修士課程 英語教育実践研究（10 月期）	若干	3	3	3
		修士課程 英語教育実践研究（3 月期）		3	3	3
		後期博士課程	5	4	4	2
	理学研究科 数学専攻	修士課程（7 月期）	5	7	6	5
		修士課程（2 月期）	若干	0	0	0
		修士課程社会人（7 月期）	若干	0	0	0
		修士課程社会人（2 月期）		0	0	0
		後期博士課程	2	0	0	0
	理学研究科 情報科学専攻	修士課程（7 月期）	5	10	7	7
		修士課程（2 月期）	若干	0	0	0
		修士課程社会人（7 月期）	若干	0	0	0
		修士課程社会人（2 月期）		0	0	0
		後期博士課程	1	0	0	0
	国際関係学研究科	修士課程	10	7	7	5
		後期博士課程	3	1	1	0
	計			43	39	31
2024	文学研究科	修士課程（10 月期）	15	8	6	5
		修士課程（2 月期）	若干	1	1	1
		修士課程 英語教育実践研究（10 月期）	若干	2	2	2
		修士課程 英語教育実践研究（3 月期）		2	2	2
		後期博士課程	5	1	1	1
	理学研究科 数学専攻	修士課程（7 月期）	5	7	7	7
		修士課程（2 月期）	若干	0	0	0
		修士課程社会人（7 月期）	若干	0	0	0
		修士課程社会人（2 月期）		0	0	0
		後期博士課程	2	1	1	1
	理学研究科 情報科学専攻	修士課程（7 月期）	5	5	5	5
		修士課程（2 月期）	若干	0	0	0
		修士課程社会人（7 月期）	若干	0	0	0
		修士課程社会人（2 月期）		0	0	0
		後期博士課程	1	0	0	0
	国際関係学研究科	修士課程	10	4	3	1
		後期博士課程	3	0	0	0
	計			31	28	25

大学院入学試験過去問題について

各研究科・課程とも、過去3年分を配付します。本学公式 Web サイトから資料請求してください。(<https://www.tsuda.ac.jp/>) ただし、理学研究科及び国際関係学研究科後期博士課程については、筆記試験がないため、過去問題はありません。また、国際関係学研究科修士課程の外国語科目については、選択する受験者がいなかった科目の問題は配付しておりません。配付されていない外国語の過去問題をご希望の場合は、入試課 (Tel. 042-342-5120) へご連絡いただければ、近年の過去問題をお送りいたします。

講義内容、カリキュラムについて

講義内容、カリキュラムの詳細については、本学公式 Web サイトから確認できます。以下の URL を参照してください。

- ・ 文学研究科 <https://www.tsuda.ac.jp/academics/gs-esc/index.html>
- ・ 理学研究科 <https://www.tsuda.ac.jp/academics/gs-sci/index.html>
- ・ 国際関係学研究科 <https://www.tsuda.ac.jp/academics/gs-inti/index.html>

研究指導教員及び指導分野（文学研究科）

専門分野	研究指導教員	指導分野
イギリス文学 イギリス文化	阿部 曜子	16・17 世紀を中心としたイギリス詩、17 世紀イギリス文化研究
	早川 敦子	20 世紀から現代のイギリス小説・文化、および翻訳論研究
	伊藤 航多	19 世紀イギリスの社会史・文化史、都市における公共文化や規範意識の問題
	米須 初美	イギリス文学・文化、特にロマン主義詩、散文を中心とした領域
	中谷 森	16・17 世紀のルネサンス期を中心としたイギリス演劇、日英の比較演劇研究
	菅 靖子	19、20 世紀のイギリスの文化史・社会史、デザイン史、消費文化論
アメリカ文学	相木 裕史	20 世紀アメリカ文学・文化研究、ジェンダー・セクシュアリティ研究、視覚文化論
	池野 みさお	19 世紀のアメリカン・ルネッサンス期の文学、女性とマイノリティの文学・文化研究、アジア系アメリカ文学・文化研究
	木原 健次	20 世紀アメリカ小説と文化、自然主義文学、アフリカ系アメリカ人文学、文学唯物論
アメリカ文化	大類 久恵	アメリカ史、特にアフリカ系アメリカ人史、宗教史
	高橋 裕子	アメリカ社会史（家族史・女性史・教育史・子ども史）、ジェンダー論
英語学	郷路 拓也	言語獲得、心理言語学、統語論、意味論
	井原 駿	意味論、語用論、談話・モダリティのかかわる諸現象
	都田 青子	音韻論、音声学、音韻獲得の日英語比較
	小野 創	心理言語学（文処理；文理解と文産出のプロセス）、言語と脳科学、統語論
	佐藤 陽介	統語論、形態論、語彙意味論、アジア言語を中心とした比較文法研究（削除現象など）
異文化コミュニケーション学	John W. Cheng	ICT (Information communication technology), Media and Communication; Social Psychology
	Elizabeth Dow	English Language Education; Intercultural Communication; Presentation Skills
	古川 敦子	日本語教育、外国人児童生徒教育、日本語教師養成
	Alexandra Hambleton	Contemporary Japan; Media and Communication; Gender and Sexuality; Nationalism and Cultural Identity; Popular Culture; Cultural Studies
	Soo-Hye Han	Political Communication, Dialogue and Deliberation, Discourse Surrounding Ethnic Minorities in Japan
	北村 文	社会学（相互行為論、アイデンティティ論）、ジェンダー研究、日本研究
英語教育	Joshua B. Antle	英語教育、TESOL
	星野 徳子	第二言語習得、バイリンガリズム、英語教育（読解、語彙習得）、心理言語学
	稲垣 善律	第二言語習得論、英語教育学、TESOL、特に外国語学習者の動機づけに関する研究
	奥脇 奈津美	第二言語習得（統語、語彙習得）、英語教育（語彙、ライティング、文法指導）、定型表現（formulaic sequences）の発達に関する研究
	豊嶋 朗子	第二言語習得論、初等から高等レベルの英語教育（英語学習・学習発達・学習参加）、英語教授法、学びの評価についての研究
	吉田 真理子	第二言語習得研究、英語教育、特にドラマ活動を取り入れた言語・異文化教育の方法の研究、初等英語教育研究

研究指導教員及び研究指導分野（理学研究科 数学専攻）

研究指導教員	研究分野	研究指導内容
原 隆	整数論・数論幾何学	ガロア表現に対して定義されるセルマー群と呼ばれる代数的な対象と、(p)ゼータ関数、L関数と呼ばれる解析的な対象との間の深遠な関係を示唆する岩澤主予想の研究をしています。 代数、幾何、解析といった数学の多様な分野に跨る、難しくも非常に面白い研究テーマです。 ひと口に「整数の研究」と言っても、その切り口は様々です。岩澤理論に限らず、それぞれが「これは面白い!」と感じたテーマを広げていって、新しい発見へと結びつける手助けが出来れば、と考えています。
井上 歩	位相幾何学	結び目理論を網羅的に学習し、その中から話題を選んで研究します。 ただし希望によっては、私が指導できる内容（主に低次元位相幾何学、要相談）であれば、結び目理論以外を扱うことも可能です。習熟度にも依りますが、まずは教科書を一冊選んで学習します。その後、選んだ話題に関する論文をいくつか探して学習し、知識を深めながら研究の方向性を探ります。そして「(些細なことでも)何か新しい発見を得て、それを(講演したり学術論文にまとめたりして)発信する」ことを目標に、研究を行います。
菊池 弘明	微分方程式論	非線形シュレディンガー方程式の定在波の軌道安定性について研究している。 ここで、定在波というのは、時間に関しては位相の周期的な変動にしか依存しない特別な形をした解であり、軌道安定であるとは、定在波に少し摂動を加えて時間発展させても、その後も形があまり変化しないことである。このことについて関数解析的手法や変分法を用いて調べている。 また、上記のことと関連して、非線形楕円型方程式の解の存在及びその性質についても興味を持っている。
小西 由紀子	数理物理学	ミラー対称性と呼ばれる、素粒子論(弦理論)に起源をもつテーマについて研究を行っている。これは代数幾何、シンプレクティック幾何、圏論などの広い分野にまたがっているが、最近はそのうちの、フロベニウス多様体と呼ばれる構造について調べている。
久野 雄介	位相幾何学	曲面の写像類群と呼ばれる、低次元トポロジーにおいて重要な役割を演ずる離散群の研究を行っている。特に、曲面上の幾何学的な対象を用いてこの群の代数的性質を明らかにすることに興味を持っている。
松野 一夫	整数論	代数体やその上で定義された代数多様体に付随する様々な数論的対象の性質を研究する。
三上 敏夫	非線形解析学・確率論	確率最適輸送理論の構築を目指している。 これは、大きな枠組みとしては、非線形解析学の一部と考えられるが、関連分野としては、確率論、変分解析学、力学系、平均場理論、ハミルトン・ジャコビ・ベルマン方程式の理論等があり、これらへの応用も意識しながら研究している。
中屋敷 厚	可積分系・代数解析	厳密に解が求まるような方程式を可積分系と呼んでおり、コルテウエグ-ドフリース (KdV) 方程式やカドムチェフ-ペトヴィアシュビリ (KP) 方程式などの非線形波動の方程式が有名である。最近では KP 方程式のソリトン解について幾何学の観点から研究している。これはリーマン面のテータ関数と呼ばれる、指数関数や三角関数を一般化した関数の研究の一環でもある。

研究指導教員及び研究指導分野（理学研究科 情報科学専攻）

研究指導教員	研究分野	研究指導内容
青柳 龍也	ソフトウェア工学	プログラミング言語、コンピュータおよびネットワークを利用した教育システム、音楽情報処理を研究
稲葉 利江子	CSCW (Computer Supported Cooperative Work)	ヒューマンコンピュータインタラクションの観点から、多言語間コミュニケーションや ICT を活用した学習環境などのコミュニケーションデザインについて研究
来住 伸子	情報工学	Web を利用したアプリケーション開発、情報教育、情報推薦のためのデータ処理、英語教育のための情報共有
栗原 一貴	ヒューマンコンピュータ インタラクション (Human Computer Interaction)	マルチモーダルユーザインタフェース、情報技術を用いたコミュニケーション、およびエンターテインメントコンピューティングの研究
永井 敦	微分・差分方程式	グラフ、特に C_{60} 上の離散ソボレフ不等式の研究。分数階微分およびその差分化
新田 善久	ソフトウェア工学	プログラミング言語、ユーザ・インターフェイス、コンピュータネットワークとその応用
貞廣 泰造	離散数学・ 理論計算機科学	有限マルコフ連鎖の混合時間
杉村 大輔	画像認識・画像処理	映像から人物の行動認識・予測、画像信号処理による高品質映像再構成、および撮像の工夫に基づく画像認識の高度化

教員及び指導分野（国際関係学研究科）

教 員 名	指 導 分 野
網谷 龍介	EU 研究、比較政治、ヨーロッパ政治史、ドイツ・オーストリア政治
大島 美徳	ヨーロッパ研究、北欧研究、国際政治論(特に安全保障研究、環境と国際政治)、国際政治史
南 諭子	国際法、国際環境法
下谷内 奈緒	国際政治学、国際機構論、移行期正義、平和構築、国際人権問題
森 悠子	開発経済学、計量経済学を用いた政策評価
澤木 久之	国際経済学、貿易政策、ゲーム理論
新海 尚子	開発経済学、国際経済学、持続可能な社会と国際開発協力
木村 真希子	国際社会学、南アジア研究
三澤 健宏	ラテンアメリカ研究、人口社会学・人口研究
中井 博康	スペイン語圏の文学・文化研究
Maja Sori Doval	ウェルネス研究、特にスポーツ文化論、比較武道論
多賀 吉隆	ロマンス言語学、歴史言語学、南フランスの少数言語研究
渡邊 あや	比較国際教育学、フィンランドの教育制度、高等教育論
Chris Burgess	日本研究、オーストラリア研究、日本に永住する移民、日本の移民政策、グローバル化の進む多文化共生社会 日本、アイデンティティ構造
小島 敬裕	東南アジア地域研究（大陸部）、宗教人類学、上座仏教徒社会論
光成 歩	東南アジア地域研究（島嶼部）、イスラム法、家族とジェンダー
朴 正鎮	東アジア国際政治および日韓・日朝関係、在日朝鮮人問題、朝鮮半島の分断と統一問題をめぐる外交史研究
関 智英	中国研究、特に中国近現代史・日本関係史・日本人の中国認識に関する研究
市川 裕史	フランスロマン派研究
北見 秀司	西洋哲学、西洋政治・社会思想史、特に 20 世紀フランス思想(特にサルトル)、現象学、存在論、 マルクス(特に疎外・物象化論)、資本主義論
松寄 英也	旧ソ連の政治、外交、民族問題、特にウクライナ・モルドヴァ政治
吉岡 潤	東欧・ロシア研究、ソ連・東欧圏形成期のソ連の対東欧、特に対ポーランド政策、東欧・ロシア民族問題
丸山 淳子	人類学、アフリカ研究、特に狩猟採集社会の社会変容に関する研究
八塚 春名	生態人類学、アフリカ研究、特に自然資源の利用に関する研究
藤波 伸嘉	歴史学、イスラーム地域研究、特に近代オスマン史、近代ギリシア史
木村 朗子	日本古典文学、日本文化研究、特に平安貴族社会におけるセクシュアリティ構成、比較文学、比較文化論
武田 万里子	ジェンダー法、憲法、人権法
Sookyeong Hong	歴史学、近代日本の文化史、食の環境史、生命・身体文化論、近代帝国・総力戦研究
川端 浩平	多文化共生論、社会学、カルチュラル・スタディーズ、日本研究
葛西 弘隆	政治学、思想史、日本研究、特にナショナリズム論、民主主義論
木村 友美	公衆衛生学、老年医学、フィールド栄養学
松山 章子	国際保健、医療人類学、リプロダクティブ・ヘルス
井上 則子	ウェルネス研究、特にスポーツ心理学、健康心理学
高垣 マユミ	心理学、教授法、学習の動機づけ、SDGs
吉村 麻奈美	ウェルネス研究、特に臨床心理学、健康心理学